

『居場所の重要性』 ～ “心の診療室” ～

2023年11月27日恵泉女学園(世田谷区の経堂)の理事会に赴いた。2021年7月1日、新渡戸稲造(1862-1933)から学んだ河井道(1877-1953)が、初代学園長である恵泉女学園の9代目理事長を拝命することになった。河井道は自著『わたしのランターン』の終わりに『時がくると、それは別の手へとひき継がれて、さらに先へと運ばれていくであろう。』と記述している。理事会終了後、3人の同窓生の理事と経堂駅に向かった。『恵泉の未来を語る会』が立ち上がる予感がする。

女子教育に大いなる理解を示した新渡戸稲造(東京女子大学 初代学長)が、河井道(恵泉女学園 創立者)、津田梅子(1864—1929; 女子英學塾 創立者)、安井てつ(1870-1945; 東京女子大学 第2代学長)を援護した三人に共通するのは『種を蒔く人になりなさい』の実践であろう。

11月28日は、『福島県立医科大学附属病院がん相談支援センター』で2009年スタートした『吉田富三(1903-1973) 記念福島がん哲学外来』に参上する。【福島県出身の世界的病理学者 吉田富三博士を記念して、吉田博士の孫弟子樋野興夫先生と【福島がん哲学外来】を開設いたしました。患者さんの思いや日常生活の悩みを受け止め、じっくりと対話する“心の診療室”です。がんに関わる悩み・不安を持って生きる患者さんとそのご家族の受診をお勧めします。】と謳われている。

筆者は、医師になり、癌研究会癌研究所の病理部に入った。病理学者であり、当時の癌研究所所長であった菅野晴夫先生(1925-2016)の恩師である日本国の誇る病理学者：吉田富三との出会いに繋がった。菅野晴夫先生とは、2003年『日本病理学会と日本癌学会』で『吉田富三生誕100周年記念事業』を行う機会が与えられた。そして、必然的に『がん哲学』の提唱へと導かれた。さらに、2008年『陣営の外＝がん哲学外来』へと展開した。2013年には『吉田富三生誕110周年記念』を企画され、新聞記事が大きく掲載された(画像)。2019年『吉田富三記念福島県立医科大学がん哲学外来10周年記念講演会』も企画された。『居場所の重要性』を痛感する日々である。

